

アメリカ・PEDウィルス、浸潤を助長しているのは？

アメリカで大騒ぎになっているPED(豚流行性下痢)ですが、9/20時点で17州、612農場に広がっています。週単位の発症数が報告されて減少傾向にはありますが、止まっているわけではありません。今回はこの点について検証してみようと思います。このうちほとんどがアイオワとオクラホマ州の農場です。被害は母豚の体調不良に連携する子豚の死亡ですが、大きくなるほど被害は見られなくなってしまう。発生農場の多くが肥育農場なので、それだけに軽視されている可能性があります。

広がりが止まらない、また何が関与して肥育農場が多いのか？これを解明するために直ぐに研究チームが結成されました。疫学的な検証を加えたところ興味深いことが浮かんできたのです。豚を積んだトラックがプラントに到着するところから、積み下ろしてプラントを後にするまでの間でウィルスの存在を検証してみました。対象としたのは主な7つのパッキングプラントで、そこを利用した計669台のトレーラーでした。

- プラントで豚を下す前に PEDV に汚染していたトラックが 17%ありました。
- (プラント)到着時には PEDV に汚染していなかったものの、豚を下す過程で汚染してしまったトラックが実に 11%もありました。係留所があるレベルで汚染状態になってしまっていることが示唆されます。

PED ウィルスがアメリカの養豚場にはじめて侵入してきたのが5月中旬でした。広がりが激しいので空気感染も関与するのかと色めき立つ騒ぎもあったようですが、これは誤りです。あくまでも糞便に汚染されたものが関連している限りは感染源になります。農場では重点的にバイオセキュリティの強化がマニュアル化していますのであまり問題はありません。一旦汚染してしまった肥育農場の出荷豚を積んだトラックが、いつの間にか係留所を汚染し、さらに別の農場へトラックを介して広げたと見るのが妥当でしょう。

現在中西部のおもなパッキングプラント関係者が集まり緊急会議をしているそうです。バイオセキュリティの確認とPEDウィルスについて勉強をしているとの情報が入っています。トラックの所有者も色々ですし、洗浄消毒などは運転手に任せられている面が多いので徹底には時間がかかるかもしれません。実態がわかったといえるのかもしれませんが。

もうひとつ懸念されているのは、アメリカは通常糞尿はピットにため、秋にピットをからにして農地に散布する作業が行われますが、この取り扱いに関するマニュアルはありませんでした。これについても大至急策定し、NPPCが情報を流しながら啓蒙を進めているようです。

Source: National Pork Board の情報をもとに

*さて日本のケースはいかがでしょうか？茨城県の農場で発生したケースでは、PEDが確定し飼養衛生管理基準に照らして防疫しましょうと農場に注意を呼び掛けていますが、そこまでです。実は茨城の食肉社に出荷している農場だという情報もあり、それであれば、ここは厚労省(食肉検査所)とも連携を取って、屠場が汚染されないか、ここを利用するトラックが他の農場に広げる心配はないか具体的な対応を進めて頂きたいと思います。

2013年11月 グローバルピッグファーム(株)